

# 26PB-am232

初年次教育における多面的教育活動を通じた医療人育成の検証

○中島 孝則<sup>1</sup>, 野澤 直美<sup>1</sup>, 木村 道夫<sup>1</sup>, 安田 高明<sup>1</sup>, 齋藤 博<sup>1</sup>, 松田 佳和<sup>1</sup>, 渡辺 博<sup>1</sup> (日本薬大)

【目的】薬学部入学時における医療人を目指すという意識や学力の格差は大きく、これを解消するための初年次教育の重要性は年々増してきている。そこで本学における初年次教育の多面的な教育活動と初期段階における医療人育成の有効性について検証を行った。【方法】本学における初年次教育の取り組みとしては、1)入学前教育(スクーリング)、2)医療人育成のための早期体験学習、3)科学リテラシー醸成のための国立科学博物館とのパートナーシップ、4)専門科目への円滑な接続のための基礎学力の定着、5)自立した大学生活の確立のためのアドバイザーによる定期的な面談を実施している。これらの取り組みを実施後、学生にアンケート調査を行いその有効性を評価した。【結果】1)本学のスクーリングは入学対象者全員を3期に分けて主に3日間実施し、薬剤師に向けて大学での学び等のガイダンスと、グループエンカウンターを実施した。実施後の参加者の満足度は約96%に達し高い評価を得た。2)早期体験学習は約80%の学生が役立ったとしており、意識の醸成という点で効果が高かった。3)本学では国立科学博物館において訪問研修を実施した。約76%の学生がこの研修を、充実し楽しいと回答した。4)基礎学力の定着について入学後の家庭学習時間を比較すると約46%の学生が高校時代より学習時間が増加したのに対し、34%の学生では減少していた。時間が増加した学生の割合は基礎学力試験の上位者で16%、下位者で30%となっており下位の学生において特に増加している傾向が認められた。5)本学ではアドバイザーとの定期的な面談を実施している。これについて約70%の学生が、学生生活を送るにあたって助かったと回答した。【考察】本学における初年次教育は、医療人としての意識の醸成において一定の成果を挙げていると考えられる。